

# たまいたさ 川柳

年賀風交 美江賞作品募集



蔵王

2019年  
1月号 (No.710)

日川協加盟

## 巻頭言

酒餅論 しゅべいろん といふこと

願法みつる

室町から江戸の頃まで、草紙本として「酒餅論」なるものが流行った。知的対論風で各様な読み物があったようだ。他に酒茶論や酒飯論なども記録に残るとか。新年、此処は甘党の餅派と辛党の酒派の議論が面白そうである。しかしどの本も、詰まるところ「酒も餅も程々に」という辺りで決着がつからしい。現代なら賑やかなテレビ討論風な場面だろう。女性が参加している絵もあるが、これは酒席に侍る女性方らしい。現代は女性優勢かも知れないが。

そんな中で「酒の十徳」なる記述があるので紹介する。「酒は独居の友となる」、「万人和合す」、「位なくして貴人に交わる」、「推参に便あり」、「旅行に慈悲あり」、「延命の効あり」、「百葉の長なり」、「愁いを払う」、「労を助く」、「寒気の衣となる」。結構な功德である。

反面、狂水、地獄湯、狂薬、万病源などの害が説かれたり、上戸・下戸の酔態も、ピンからキリまで表現される。現代と変わらない。誠に有史以来、洋のいづれを問わず、「酒なくては夜も明けず、詩も吟じ得ず」である。

酒好きの柳人も多い。女性方の姿も様々で微笑ましい。柳宴は、上戸も下戸も和やかに愉しめる饗宴でありたい。新年、わが酔態を客観視したい。三日坊主たるうけれど。

日日是好

願法みつる

元朝へおはようさんの深呼吸  
 新年の鏡へ取えて笑顔見せ  
 三日過ぎきて来し方をふり返る  
 やがて知る未来は過去の繰り返し  
 一握の砂を放てば大宇宙